

少しの勇気

神奈川県 渡田中学校 3年 児玉 麗

私が中学校2年生のときに体験した話です。学校の授業を終えて下校しているときのことです。私の家は学校から近く、部活にも入っていないので、いつも一人で帰っています。その途中で一人のお年寄りとお会いしました。その人は自分の住所をずっと繰り返して、その住所とは違う方向に歩いていました。

私はそのお年寄りに声をかけました。「どこに行きますか」。そうするとお年寄りの方は笑顔で、「家に行くんだよ」と言っていました。しかし住所とは反対の方に歩いていたので、学校の近くの交番まで送ることにしました。5分程度歩けば着く距離なので、私はそのお年寄りの方と話しながら歩きました。

その人はとてもやさしくて、話を何度も笑顔でくり返して、そこで私はあることに気がつきました。この人は認知症ではないかと。そう思っているうちに私は焦ってしまいました。口が乾燥していないか、体調不良になっていないか、観察しました。交番に着く前に倒れてしまったらどうしよう、といろいろ考えているうちに、不安で怖くなりました。

5分がとても長く感じ、交番に着き、やっと着いたと安心したときです。交番の中には誰もいなくて、外には『巡回』と書いてありました。そのころの私は警察をどうやって呼ぶのかわからなくて、学校帰りで携帯も持っていなかったため、近くにいた人に携帯を借りて電話をしました。警察が来るのを待っている間も不安でした。

警察が来たとき、私は安心して、今までの不安がなくなりました。そして家に帰ってきて思い返すと、スッキリした気分になりました。今までは内気で、電車の席を譲ることも、勇気がなくてできませんでした。親切とって思っていたことが、相手にとって迷惑だと思われることが怖くて、親切なことができずに後悔していました。

しかし勇気を出して声をかけることで、後悔することが減ると思いました。もしあのとき、私がお年寄りに声をかけていなかったら、もし私が交番まで送らなかったら、家に帰らずに、ずっと歩き続けて倒れていたかもしれません。命に関わることでもあります。

私はこの経験から、勇気を出して自分が親切だと思えることをすれば、助かる人がいるということがわかりました。電車で席を譲ることも多くなり、その分、「ありがとうございます」と言われることが多くなりました。たまに遠慮されることもありましたが、前みたいに後悔することはなくなりました。

勇気を出して声をかけることは大事です。しかし、親切なことをしても感謝されないときもあります。それは、親切とは言えません。人に「ありがとう」と言われることを期待してはいけないと思います。人から感謝されることで、親切なことをしたと言えらると思います。私が今までにした親切も、相手にとっては親切ではなかったこともあったと思います。相手に感謝されるために、快く思ってもらうために、相手の気持ちを考えようと思います。